

みいつけた!

福岡県保育協会通信



By mutual confidence and mutual aid,
Great deeds are done, and great discoveries made;
相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなさる。
—ギリシアの詩人 ホメロス

福岡県保育協会会長あいさつ	2
福岡県知事であいさつ	3
福岡県保育士会会長あいさつ	4
保育大会報告（筑豊地区）	5
第1回九州保育三団体研究大会報告	6-7
新園紹介	8-9
公立発信	10
コラム 生の松原子どもスコレ 山下麻里	11
福岡県保育士就職支援センター・編集後記	12

あいさつ



福岡県保育協会の皆様には、平素より児童福祉の理念のもと、未来を担う子ども達の健全育成に全力で取り組まれていることに深く感謝申し上げます。

平成27年度からの子ども・子育て支援新制度の施行に向け、平成25年4月より国の子ども・子育て会議において、本会議が17回、同会議基準検討部会が21回行われてまいりました。基本指針や保育の必要性の認定基準・認可・確認基準・公定価格等制度の基本的な仕組みの検討が進められ、各種の政省令等が随時発出されています。公定価格の仮単価と利用者負担の考え方がまとめられ、今後は各自治体において、条例の制定・認可確認事務・保育の必要性の認定事務が進められることとなります。このように、新制度のもと保育制度が大きな転換期を迎えています。

また、保育事業を行う多くの社会福祉法人は、平成27年度までに新会計基準への移行が義務づけられ、財務状況等の運営に関する情報開示が求められています。更には、補助制度や税制等の保育所運営において、株式会社等の条件との平等化が求められる中、社会福祉法人のあり方も問われております。このような状況を踏まえ社会の要請や地域のニーズにどのように応えるか、考えていく必要があると思います。

子ども・子育て支援新制度については、国会審議の過程において『量的拡充』と『質の改善』を実現するために1兆円超の財源が必要とされています。

しかしながら、公定価格の仮単価は、消費税増税分の0.7兆円が満額充当される平成29年度の

時点のものであり、残りの0.3兆円超は予算編成過程における歳入・歳出の見直し等の動向を踏まえて確保に取り組むとしています。新制度に向けた子ども・子育て環境の充実には最低でも1兆円超の財源確保が必要不可欠であり『量的拡充』と『質の改善』が新制度移行時に最大限実現されるように財源の確保に取り組んでいくよう要請する必要があります。と思っています。

未だ、いくつかの課題等も残されていますが、今回の新制度が子ども達や保護者、事業者にとってより良い制度になるようお願いしております。



知事ごあいさつ



福岡県保育協会におかれましては、日頃から保育の発展普及活動に大変熱心に取り組まれ、子どもたちの健やかな成長と子育て家庭の支援に多大な貢献をいただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

今日、少子化や核家族化、都市化の進展などに伴う、家庭や地域社会における子育て機能の低下により、子育てに不安感や負担感を抱く保護者が増加しています。

また、女性の社会進出などに伴い、保育需要も都市部を中心に依然増加を続けております。

このような中、子どもたちの健全育成や、子育てと仕事の両立支援はもとより、地域における子育て支援の拠点として、保育所に寄せられる期待はますます大きくなっています。

皆さまにおかれましては、貴協会のもと、より質の高い保育の実現のため、なお一層ご尽力いただきますことを、心から期待します。

県では、子どもが健やかに育つ社会づくり、子育てを地域全体で支え応援する社会づくりを進めるため、次世代育成支援行動計画を策定し、ライフステージに応じた施策を総合的に実施しているところです。

増大する保育需要に対応するとともに保育環境の充実に取り組むため、市町村と連携しながら保育所の施設整備を積極的に進めています。

併せて、保育の質を高めるため、貴協会のご協力をいただきながら階層別研修や専門性の高い各種研修を実施し、保育現場で活躍する皆さまのサポートに努めています。

また、近年の保育士不足に対応するため、結婚などで保育現場を離れている保育士の現場復帰を促す体験実習の実施、そして「保育士就職支援セ

ンター」を設置し、保育士として、働きたい方と保育士を求めている事業者とを仲介し、円滑な就職と求人の支援を行っているところです。加えて、保育士の処遇改善に取り組む民間保育所への支援も行っています。

さらに、今年度から、貴協会のご協力を得て、保育士養成施設の学生などに保育所への就職を促す合同就職説明会を開催することとしています。

先般、平成27年4月の子ども・子育て支援新制度の本格施行に向け、国において、乳幼児の教育・保育などを実施する施設・事業の基準が取りまとめられたところです。

県では、貴協会からも武藤副会長、森田理事に委員として参画いただいております「子ども・子育て会議」での、実際に保育に携わる皆さま方のご意見を踏まえながら、市町村において、新制度へ円滑に移行できるよう、適切な助言や支援に努めてまいります。

今後も、こうした取り組みをはじめ、安心して子どもを生み育てることができる社会づくりに向け、時代のニーズに応じたさまざまな施策を積極的に推進してまいります。

貴協会のご理解とご協力が不可欠ですので、引き続きなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

福岡県保育協会のみますますのご発展と、皆さまのご健勝とご活躍を心から祈念いたします。

新制度がスタート しようとするなかで

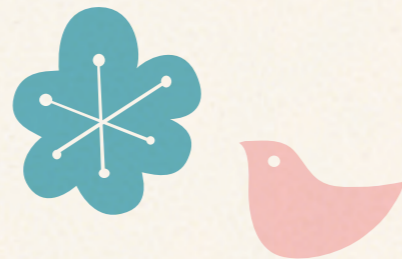


平成27年4月より、新しい保育制度がスタートします。この制度は、「すべての子どもへの良質な成育環境を保障し、子どもを大切に作る社会」の実現のために制度化されたものです。それぞれの施設長の皆さん方は、ご自分の保育園がどの施設体系を選択すればよいのか思案されているところだと思います。この制度には、まだ多くの課題があります。それぞれの市町村の「子ども・子育て会議」で決まったことが条例化され、それに沿って子どもの処遇が展開されます。これらは、財源の問題と大きく関連しますが、市町村行政の責任は多大です。

長い年月、保育の現場しか知らない私から願うことは、ただ一つ、どこの地域で育とうとどの子どもも幸せになって欲しいということです。「児童憲章」の魂そのものを大人は共有してほしいと思うのです。1951年5月5日、こどもの日に制定されたこの憲章は、子どもの最善の利益を保証するものです。どんなに小さな命であれ、人として尊ばれ、社会の一員として重んぜられ、そして、その命は、よい環境の中で育てられなければならないと云っています。私たち大人がしなければならぬ大人の責任を示しています。今一度、すべての人がこの児童憲章を読み、心に留めてほしいと思うのです。

さて、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が、本年4月30日に告示されました。全国保育士会では、本要領の告示を受けて、要望書を6月27日に提出いたしました。要点は、①子どもの最善の利益の保障、②福祉的視点の保育の遵守、③保護者支援、地域の子育て支援について、④保育は養護と教育が一体となって展開され、保育には教育が含まれている、⑤0歳児から就学前までの乳幼児の保育には養護とともに教育がある、⑥全体的な計画の作成について、等です。

この「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」が告示化で示されたときの印象は、「教育」の言葉が入ったことに、驚きと不思議感を抱き、大きな疑問と不安を持ちました。これは、認定こども園法に基づく教育と保育の定義をそのまま引き継がざるを得なかったという説明ですが、この法律によると「教育」は「学校において行われる教育をいう。」とされ、一方「保育」は「養護と学校教育を含まない教育を行う。」とされました。学校教育で行われる教育も保育で行われる教育も内容は同じはずなのに、認定こども園法の分かりにくい説明によって、惑わされ混乱を招いているのです。このことは、いずれ法的整理を求めて行かなければならないと思います。現実的には日々の保育の中で私たちが行っている保育に自信と誇りを持ち、0歳から就学前までの乳幼児の子どもに情緒の安定と健康で安全な生活を保障し、一人一人の発達に応じた学びの支援を行い、「保育」のありようを発信していかなければなりません。福岡県保育士会では、社会で正しく保育を理解してもらうために、この秋にキャンペーンを計画しています。どうぞ、ご理解とご協力、ご支援を賜りますようお願いいたします。



『子どもたちの輝く笑顔をめざして』 保育は子どもの命を育み（養護）学ぶ意欲を育てる（教育）～

福岡県保育協会4ブロック大会のトップを切って、平成26年6月8日（日）、なかもみホールにおいて、第57回筑豊地方保育事業研究大会を開催しました。今回は、保育関係者を中心に1,200名もの参加者が集い、子ども・子育て支援新制度の骨格や方向性が固まりつつあるなかで、先人が築いてきた「保育は養護と教育を兼ね備えている」「保育所（園）は子どもたちの生活の場である」ことを再確認しながらも、新制度との方向性を合わせた保育への取組みを考える良い機会を提供できました。

大会は式典に先立ち、まず実践発表があり、水巻みなみ保育所主任保育士の空閑敏恵先生より、遠賀中間地区保育協会で開催している研修体系について、「一人ひとりが主体的にかかわる研修会をめざして」というテーマで、写真や動画を使いながら保育士の意欲的な姿や研修方法の報告がありました。

保育所は、こどもたちにとって心地いい気持ちいい安心できる場所。保育士は子どもたちのいろいろな表情を敏感にそして豊かに受け止めたい。そのためには、保育士一人ひとりがお互いの感性を大切に、認め合い、つながり合い、高め合う学びの場が大切だと考えて取り組んでいます。これからも一人ひとりの保育士が主体的に関わり、スキルアップを目指し学び合うことを願い、この研修を続けて行こうと思っております。

発表の最後に、わらべうた研修のメンバーによるアトラクションを見ていただきました。中でも『アジアヒル』は「赤ちゃんと歩くときに歌ってあげるといいね。」と好評でした。

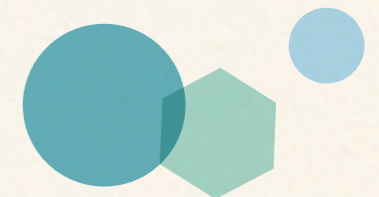
式典では、福岡県保育協会と福岡県行政や福岡県議会との絆が強固であることがアピールされ、各市町村とは地方版子ども子育て会議などを通して連携を密にしてゆくことで、子ども・子育て支

援新制度に対応することが確認されました。

また、46名の方々が会長表彰（一般表彰）を受けられ、遠賀川保育園の大庭陽子先生が代表して、「大切な幼児期の子どもたちにかかわることができるこの職業に就けることは幸せであり、今後とも保育士としての誇りと責任を持って頑張っていきたい。」との謝辞を述べられました。

記念講演では、大妻女子大学教授 岡 健先生の「新保育制度の方向性と保育・子育て支援～子どもにとっての保育を考える」という演題でお話をお聞きしました。子ども子育て支援法に基づく基本指針、子どもを見る視点、保育のねらいについての講演内容でしたが、急遽、今回の実践発表についての評価もしていただきました。先生のお話の中で最も心に残ったことは、「保育は専門性が高い。専門家とはどういうものなのかを、保護者をはじめ色々な人たちに伝えていかななくてはならない。」との言葉でした。私たち保育者は、保育の専門家として、子どもたちへの質の高い教育・保育の提供や保護者への子育て支援など大切な役割を担っていると改めて感じさせられた貴重な記念講演でした。

最後になりますが、本大会の実践発表や記念講演を通して、保育者の理念である「子どもたちの最善の利益の確保」や大会主題「子どもたちの輝く笑顔をめざして～保育はこどもの命を育み（養護）学ぶ意欲を育てる（教育）～」を確認いただいたことで、筑豊地方の全ての保育者が、保育の理想実現に向けて第一歩を踏み出していただけることを、心より願っています。



第1回 九州保育三団体 研究大会開催 (速報)

大会実行委員会企画委員長 半田 義文

すべての人が
子どもと子育てに
関わりを持つ
社会の実現を
めざして

平成26年7月23日・24日・25日の3日間にわたり、九州の保育三団体が、これまで別々に行っていた大会を1つにした、「第1回九州保育三団体研究大会」をヒルトン福岡シーホークにて開催しました。

九州各県は元より、遠くは北海道からも1,800名を超える保育関係者にご参加いただき、「すべての人が子どもと子育てに関わりを持つ社会の実現をめざして」を大会主題に掲げ、保育が今、大きな転換期を迎える中、熱き研究大会となりました。

第1日目の式典は、主催者、福岡県知事、福岡県議会議長のあいさつに始まり、九州社会福祉協議会連合会会長表彰111名、九州保育三団体協議会会長表彰37名、功労表彰3名の方の表彰が行われました。被表彰者を代表して、福岡県明見保育園の合代さゆり園長が謝辞を述べられました。

続いて、厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課幼保連携推進室室長の南新平氏より「子ども・子育て支援新制度」と題しての基調講演がありました。

この中で、子ども子育て関連3法のポイントは、①認定こども園、幼稚園、保育所を通じた共通の給付（「施設型給付」）及び小規模保育等への給付（「地域型保育給付」）の創設 ②認定こども園制度

の改善（幼保連携型認定こども園の改善等）③地域の実情に応じた子ども・子育て支援（「地域子ども・子育て支援事業」）の充実④基礎自治体（市町村）が実施主体⑤社会全体による費用負担⑥政府の推進体制を整備（内閣府に子ども・子育て本部を設置）する。⑦子ども・子育て会議の設置 ⑧施行時期は平成27年度とすることの解説及び公定価格の仮単価について、幼稚園・認定こども園、保育所の標準的規模での説明がありました。

1日目の日程が終了後、小川福岡県知事も参加されて交流会を開催しました。オープニングは地元の精華女子高等学校吹奏楽部による盛大な吹奏とマーチングがあり、素晴らしい演奏と華麗な動きに魅了された参加者からのアンコールに、予定時間を超過してしまった程でした。各県の参加者は、工夫を凝らした出し物等も楽しみながら情報交換を行いました。

2日目は、九つの分科会に分かれて、それぞれのテーマごとに活発な研究討議となりました。そのなかで、特別分科会は「子ども・子育て支援新制度について」として、第1部では、淑徳大学・大学院教授の柏女霊峰氏による、新制度についての概要と課題についての講演、第2部は柏女教授がコーディネーターとなり、3人のシンポジストが登壇、新制度についての従来と運用が変わる点や幼稚園、認定こども園、保育所の公定価格の



仮単価を、それぞれの施設に当てはめた場合の違い、今後の保育において留意すべき点等について研究討議が行われました。

3日目は、地元福岡県出身の鳥越俊太郎氏の記念講演があり、「鳥越流ポジティブな人生の歩き方」の演題により、「自分は若い時は、勉強熱心ではなかったが、多方面に興味を持って取り組んだ。そして、ここぞという時には客観的に状況を把握して、集中力を発揮してやりとげ、人生を乗り切ってきた。幼児期の子どもたちは、それぞれが違った個性を持っており、保育園の先生方はそ

の芽を摘まずに大いに伸ばして欲しい」などと話されました。

この後の総会では、大会宣言の朗読、次期開催県の田中佐賀県大会実行委員長へ引継ぎが行われました。閉会式では、大会一本化検討委員会の委員長として、今回の大会開催にご尽力された宮崎県保育連盟の井之上理事長の検討報告をもって3日間にわたる研究大会が終了しました。

*各分科会の報告につきましては、福岡県保育協会ホームページをご覧ください。

新園紹介

かとう保育園

かとう保育園 園長 大園 利子

はじめまして。

社会福祉法人相和会 かとう保育園は、平成 26 年 4 月 1 日に宗像市城西ヶ丘に開園いたしました。社会福祉法人相和会には福岡県内の 6 か所に保育園があり、法人理念は、「小さな手 未来へつなぐ 感謝の心」です。

いろんな人や物に「ありがとうございます」「おかげ様で」という感謝の気持ちを育てる種を子ども達、一人ひとりの心の中に蒔き、育てていきたいと思っています。

かとう保育園は、自然豊かな素晴らしい環境の中にあり、両隣には中学校と小学校があります。また、私たち保育士は、子ども達のために保護者の皆様や地域の方々とのつながりを大切にしながら、一緒に子育てをしていきたいと考えています。

そして何よりも、子ども達に愛情を持って接し、何事にも意欲的に取り組み、美しい言葉で話し、いつでも笑顔で、思いやりのある保育士でありたいと思っています。

かとう保育園では、保育の中に和太鼓指導を取り入れています。挨拶や姿勢、リズム感などの基本的なことを身に付け、体力、集中力、忍耐力、協調性、強い心を養うと共に、演奏の感激や喜びも味わってほしいと願っています。

また、子ども達はヒマワリやトマト、ゴーヤなどを植え、お世話をしながらそれらが大きく生長し、きれいな花を咲かせることや実がなり、収穫できることを喜び、感謝して食べています。

開園して4か月が過ぎましたが、保護者の皆様が「保育園に預けて良かった」と言っていただけよう職員一同協力し合っています。



下広川保育園

下広川保育園 園長 田中 和子

社会福祉法人幸輪会下広川保育園は、平成 26 年 4 月 1 日八女郡広川町より移管されて開園しました。定員は、110 名です。

一人一人違った個性を持って生まれてきた子どもたち、それぞれの個性を發揮しながら「今が楽しい」「今が幸せ」と感じる乳幼児期をすごしてほしいと思っています。また、一人一人の違いを認め合いながら、いろんな人の間で、生きていくことができる集団を通して、社会の一員として、それぞれの立場で活躍し、社会に貢献できる人材が育ってくれることを願っています。

保育目標として、心身共に健康な子ども・思いやりの心を持って、仲間を大切に、豊かに感じることを表現できる子ども・人の話を聴き自分の意志をはっきり言う事ができ、意欲的に取り組む子どもを目指しています。

園の給食は、玄米和食の給食です。近年、昔ながらの食事が大きく変化し、動物性たんぱく質が手軽に食べられるようになったため、生活習慣病の増加や低年齢化が進んでいます。このような食環境から、子どもたちを守るために「本物の味」を伝えたいと思い玄米や魚・野菜・芋などを使い、だしと素材の味を活かした煮物や和え物、味噌汁を中心とした食事を提供しています。

社会福祉法人幸輪会下広川保育園は、日本中・世界中に幸せの輪が広がっていくことを願って、保育をしています。



岡垣東部保育所

岡垣東部保育所 所長 首藤 恵子



平成 26 年 4 月 1 日より、岡垣町立東部保育所の民間移譲先法人として認可を受け、「社会福祉法人いわき福祉会 岡垣東部保育所」としてスタートしました。

民営化にあたっては、今まで以上に保育の質とサービスの向上を図ることが求められています。今までの保育と伝統を踏襲することを第一の目標に、保護者や子どもたちとの信頼関係を築き、楽しい生活の場を作りながら、徐々に新しい取り組みも行っています。

一年目として「まず動く」を目標に掲げました。“子どものために”今何をすべきかを職員全員で話し合い、クラスごと、個人目標を決めて取り組んでいます。

旧町立保育所の保育士を多く採用したことで、保護者とのコミュニケーション、保育の流れなど、大きな混乱もなく今日に至っております。民営化されたということで保護者の期待も大きいものが見られます。一度に変えていくのではなく、ニーズを聞き取りながら、受け継がれてきた歴史を大切にしながら進めていきたいと思っています。

岡垣町の豊かな自然環境の中で、笑顔が素敵な、個性あふれる活力ある“岡垣っ子”が育っていくよう、保育士、保護者や地域の皆様と一緒に、「良い芽生え」を育てていきたいと思っています。



新吉富保育所

新吉富保育所 所長 梅高 浄祐

子どもの美しいまなざしに学ぶ日々

上毛町立新吉富保育所（公立）の民営化に伴い、諸々の手続きを経て大分県の中津市にあります。学校法人扇城学園に移管した保育所です。契約時の約束として、在園児や保護者の不安払しょくの為もあり、永年行ってきた保育所の方針や保育内容、地域との連携などについては継続して行っているところです。

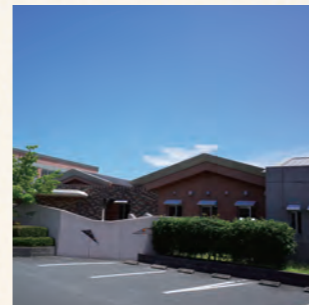
本学園には、保育者養成校（幼稚園教諭二種免許と保育士資格）の短期大学があり、その開設時に学生の資質向上の為の実習施設として、附属幼稚園が設置されておりました。今回の保育所移管で、0才～5歳児の連続した保育・教育も学園内で行えるようになりました。

立ち上げから今日に至るまで、保育の専門的知見を有する大学教授の力を得ながら船出して、早6ヶ月が過ぎようとしています。

ゆたかな自然に囲まれた保育所からは、桜、田畑、山などが臨め、今は蝉の鳴き声等、四季の変化を身近に感じながら、ゆっくりとした時間が流れていきます。

また、子ども達がのびのびと遊べる空間作りをめざし、春に園児や保護者の皆さんと一緒に、園庭を芝生化しました。職員間の仲もよく、先日の夕涼み会は職員の手作りお面など、アットホームな雰囲気の中で、盛会の内に終える事ができました。

輝くまなざしの子ども達に接して、保育の喜びを感じている今日この頃です。職員一同、子どもに力をもらい育ててもらっているところも大きい感じがいたしています。



みんなで考えよう 子どもたちのこと

—研修で高める保育の質—

久留米市立江南保育園 園長 廣重 玲子



はじめに

久留米市は現在9園の市立保育園があります。当園は2007年（H19年）公設民営から市立保育園となりました。市役所・JR・病院・マンションなどが近隣にある中心部ですが、園内は、いちよう・けやき・杉・桜などの大樹に囲まれ、散歩にでかければ筑後川や水天宮・梅林寺等四季折々の自然に恵まれています。保護者の就労などの関係で、10小学校区以上から登園している園児たちは、仲間とともに毎日元気に過ごしています。

保育士・看護師・調理師など多様な職種や勤務形態の保育園で大切なことのひとつに人材育成があります。語り合い、話し合い、学びあいながら、保育の専門性を高めるとともに豊かな人間関係をつくることは、保育の質の向上へと繋がると考えます。

久留米市や当園における保育園職員研修について報告いたします。

*市研修推進委員会による研修会

久留米市の公私立保育園では、久留米市研修推進委員会（公私立園長・主任）・幼児教育研究所を中心に保育の質の向上をめざして、保育実践・特別支援・テーマ・給食などの部会に分かれての研修を行っています。1年間の研修は次年度の日曜日に全員対象に各部会代表が研修大会で発表し、まとめた冊子は各人の保育参考資料としています。各園の情報交換や事例研究の場となっているこの研修会は30年間継続しています。

*研修報告会

「笑顔あふれる子どもたち」を合い言葉に行政保育士としての課題に取り組み、園長会を中心に研修会を行っています。全職員を対象に、市外や県・全国の研修会の報告会を年2回行っています。報告集を各自に配布し、参加者が15分程度の発表をします。その中で研修内容を伝えることは大変ですが、明日の保育に生かし

たい>とのおもいを参加者が言葉にしています。

*もも花研修会

園長・子育て支援センター長・主任・技術主査を中心にした自主研修会です。

全職員対象講演会やグループディスカッション・事例研究会などを実施しています。昨年は現場の臨床心理士の先生からの講話を聴き、保護者支援を研修テーマとして家庭子ども相談課の相談員として配属している保育士たちとの事例研究をしました。<身近で出来ることから始めよう>と職員間で改めて確認できたことはとても有意義でした。今年も継続して保護者・家庭支援を考え、来年度からの新システム制度についても討議しているところです。

*各園自主研修会

各保育園では園独自の課題にそって自主研修を行っています。当園では気になる子や特別支援についての研修を研修委員となっている職員を中心に定期的に行い、情報交換や討議をしています。書籍を持ち寄り、幼児教育研究所の先生にアドバイスをうけたりと手探りの研修ですが、一人で抱え込まないで、みんなで共有していくスタンスは大切にしています。

この原稿を書いている頃、長崎にて悲しい事件がありました。子どもたちに関わる者として、幼少期にまわりの大人達ができることがあったのではないかと考えさせられます。気になる子・家庭支援・保育士不足・・・の課題はありますが、地域の中で広い視野で子どもたちのことをとらえる役割が保育園にあります。まさに継続は力です。社会や地域が変わった・保護者が変わったといわれても、子どもの心を置き去りにしないで大人の意識を変える努力を、保育の実践のなかから語り広げ続けていきたいものです。

さばこ Cavaco のそねいけ ワークショップ

子どもたちの
想像力に
耳をすまそう

Vol.7

このコラムでは、保育園で愉しく遊べる、物語をテーマとしたワークショップをご紹介します。本年度どうぞ宜しくお願いします。

さて、身近に手に入る大きな紙、薄くて扱いやすく、

柔らかくて手を切る心配のないものといえば、新聞紙。新聞遊びは保育園でのプログラムによく組んでいらっしゃるのではないのでしょうか。そんな新聞遊びに物語というスパイスをちょっとを加えると、また面白い活動になりました。

ワークショップの時間が始まったとたん、いつもの先生が突然目をキラッと、胸の前で腕を組んで子どもたちの前をうろろう・・・「今日はいそくとっくんをするぞ！私のことは船長とよべ〜！」。子どもたちは、きょとんとしたり、くすくす笑ったり。「今日の返事は『はい』じゃないぞ、『アイアイサー』と言え〜！」お返事の練習を何度かすると、趣旨が分かったのか目をきらきらさせながら、「アイアイサー〜!!」。

こうして、新聞紙を使った「かいそくとっくん」のはじまり、はじまり。

まずは、折り紙の要領でかいそく仲間の印、かいそく帽子をつくります。お揃いの帽子ができれば「かいそくたち、今日は3つのとっくんが待っているぞ！頑張れるか〜?」、「アイアイサー〜!!」。「では、ひとつめのとっくんはやり投げだ!」

新聞紙を端から1/3程度を裂いて巻いてとめ、ふさふさのついた「やり」をつくります。みんな一列に並んで・・・笛の音に合わせてえいっと投げます。的をつくってもいいでしょう。

この「かいそくとっくん」は、制作と身体を動かす活動の繰り返しなので、笛がかなり重要な役割を果たしました。背筋がピリッとする笛の音ですが、かいそ

くストーリーがある中での使用は、効果的に響きました。普段使用されている笛の音と違うものを特別に用意するのも雰囲気を出してよいのではないのでしょうか。

ふたつめは、水泳とっくん。新聞紙をたくさんビリビリ裂いて・・・新聞の海をつくります。新聞紙は紙の目の関係から、横にはちぎりにくいですが、縦には子どもの力でも面白いほど簡単に裂けますので、まずその点を教えてあげると沢山の裂き新聞ができます。新聞の海ができれば、また1列に並んで、うつ伏せに寝転がり水泳とっくんスタート!

みつめは色をつけた「新聞宝」を用意して、裂き新聞の海に隠し、宝探しとっくんです。かくれんぼの要領で、宝を見つけた子が次の回は隠し・・・を繰り返して遊びます。

終わりにゲーム感覚で大量の裂き新聞の海をあっという間に回収!とっくんが疲れたちびっ子海賊たちに、船長からの賞賛の言葉と「やり投げは海に落ちた仲間にロープを届けるため、水泳は自分の身を守るため、宝探しはムフフフ・・・、強く優しい海賊を目指すのだ〜!」「アイアイサー!」と締めて終了しました。

そしてかなり身体を動かしますので万が一の熱中症対策も、お忘れなく・・・!

山下麻里（やました・まり）

グラフィックデザイナー。九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻修了。2007年より九州大学大学院特任教授目黒実氏が主催する「子どもプロジェクト」に企画・デザイン等で参加する。在学中、ユニバーサルデザイン教育を通じた社会貢献活動プログラム[こどもたちのUD移動ミュージアム]にデザインで参加、同プロジェクトはグッドデザイン賞、キッズデザイン賞を受賞した。2012年、福岡市西区に「生の松原子どもスコーレ」をオープン。

～保育を支える～

福祉の世界では、古くから共通に言われていることがあります。「福祉は人なり」と。(知識、経験(技術)、そして“福祉の心”を備えた人材のこと。)

福祉を支える要素は、「人」、「物」、「制度」、「金」等色々なものがありますが、福祉の先人たちは、その中でも「人」が最も重要な要素であるということを現場の経験を通して学んだものと思います。まさに正鵠を得た金言です。

特に、乳幼児の成長、発達を支援することを使命とする私たち保育関係者にとって、「人」なくして保育はできません。

しかし、今、保育界では、その「人」に関する問題が深刻な課題として提起され、全国的にも保育士確保対策が急務の課題となっています。

こうしたことから、わが保育協会においても、県の委託を受け、昨年7月から「福岡県保育士就職支援センター」を設置し、保育士資格を持った方の保育所(園)への再就職と保育所(園)の人材確保を支援する職業紹介事業を行っています。

設置後一年が経過しましたが、本当に保育士不足は、対岸(東京や大阪などの大都市部)の火事ではなく、本県においても福岡市やその周辺地域を中心に、深刻な問題であることを実感する毎日です。

昨年の状況を見てみますと、求人が82保育所(園)207名、対して求職は54名であり、この数字からもいかに保育現場で保育士が不足しているかが理解できます。このうち、43名が当センターの支援を得て保育現場に就職いたしました。この方々には、是非長く保育現場に定着し、保育の喜びや、やりがいを感じていただきたいと願うものです。

当センターでは本年度に職員1名を増員し、本事業の強化を図ることにしたところであり、現在、県内の保育士養成施設(大学、短大、専門学校)への訪問や、県内のハローワークの窓口を活用した出張相談会など、現役学生や潜在保育士の方を保育現場に呼び込むための取り組みを進めております。

協会会員の先生方には、求人に当たっては、職安窓口のみでなく、是非、当センターにも相談、登録していただききたいと思っております。

「人」が子どもを育て保育を支えます。その貴重な「人」を紹介します。是非活用してください。詳しくは、当協会のホームページを参照願います。

(福岡県保育士就職支援センター)

【編集後記】

平成27年度から子ども・子育て支援新制度が始まります。市町村では将来的な保育需要や児童人口の動向が分析され、説明会等が実施されているようです。また、保育所や幼稚園に対する子ども子育て新制度への意向調査も行われ、保育所の運営に関わっている皆さんも様々なビジョンを想定し、考えを巡らされているのではないのでしょうか。ただ、利用者の方々にもこの新制度の内容はほとんど理解されず、さらに、待機児童対策以外はこの制度の意図が十分伝わってこない中では大きな危惧を抱えている今日この頃です。 広報部 日野

発行日 平成26年9月25日
発行者 万田 康
編集者 半田 義文
発行元 公益社団法人 福岡県保育協会
発行所 春日市原町3丁目1-7
TEL 092-582-7955
FAX 092-582-7956

保育園および園児をさまざまなリスクからサポートします

保育園経営には、さまざまなリスクが伴います。(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、保育園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する各種保険を取り扱っております。

全私保連保険制度

「保育園賠償責任保険」「保育園児団体傷害保険」「特別保育事業賠償責任保険」など、保育園経営に必要な不可欠な保険をラインナップしています。また、それらを総合的に補償するセットプランもご用意しております。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。ご照会は、下記連絡先どうぞ。

園児総合保障共済制度

保育園児を24時間補償する共済制度です。保育者にとっては一般に比べて割安な掛金で補償を確保することができます。

(公社)全国私立保育園連盟指定
東京海上日動火災保険株式会社
三井住友海上火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ
〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881 FAX 03-3865-2806

(引受保険会社)

(幹事保険会社) 東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 公務第一課
TEL：03-3515-4133

(共同引受保険会社) 三井住友海上火災保険株式会社

このご案内は全私保連保険制度・園児総合保障共済制度の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。

